



小松の松東中 文化祭で披露

「勧進帳」魅せた

小松市松東中学校の生徒が六日、県こまつ芸術劇場つらうで歌舞伎「勧進帳」を演じ、迫力ある立ち回りで約六百人の観客をわかせた。全校生徒九十一人のうち、三年生全員と一部の二年生計四十三人が舞台に登場。残りの生徒も小道具など裏方を担当し、教職員二十人や保護者も一緒に舞台を作り上げた。（白井春菜）

弁慶役の西口諒司君（三年）と富樫役の塚本陸君（同）の緊迫した掛け合いや、義経役の太田理香子さん（同）のこまやかな演技など見せ場ごとに大きな拍手や「よっご兩人」の掛け声が飛んだ。

大役を演じきった西口君は「百点満点で百五十点の出来。人数が少ないので、先生や家族の支えのおかげで成功させることができた」と充実した表情。衣装係として弁慶のマークなどを担当した田中奈津美さんは、「裏方でも戦した」と話していた。

勧進帳は一九八六年（昭和六十一）年から市内の中学校十校が持ち回りで演じている。同校は文化祭の出しどの一つとして、六月後半から本格的に準備を進めていた。

弁慶が勧進帳を読み上げる
場面を演じる生徒たち＝県
こまつ芸術劇場つらうで